

12月議会定例会

新型コロナウイルス ワクチン4回目接種 藤里町の接種率は73.5%

令和4年12月議会定例会が12月13日から16日までの4日間にわたり開催され、一般会計補正予算など上程された16案件について原案どおり可決されました。

行政報告

◇新型コロナウイルスワクチン接種状況と4回目接種

新型コロナウイルスの4回目の接種についてであります。8月27日土曜日から、集団接種を進めてまいりました。

12月10日、10回目を終了し、順調に推移しております。

12月12日現在、集団接種は1,288人、個別接種は656人の方が終了し、接種率は73.5%であります。

また、11月26日からは5回目を対象とした方々の集団接種も始まりました。年内は12月17日まで、年明けは1月7日と14日を予定しております。

国の予防接種の特例期間が令和5年3月31日までと設定されております。

今後も集団接種については、国の動向

に注視しつつ、引き続き、能代市山本郡医師会と、関係自治体とで連携し、取組んでまいります。個別接種は、当面の間、継続し、希望者全員の接種が完了するまで実施してまいります。

◇農林業関係について

令和4年産米の集荷状況についてであります。JAあきた白神藤里営農センターの11月16日現在における集荷実績によりますと、30kg単位での契約数量74,428個に対し、集荷実績は62,896個で、集荷率は84.51%となっております。県北地区の作況指数94の「やや不良」という予想数量をさらに下回った結果となりました。加えて当町の1等米比率は83.4%と平年を大きく下回りま



影響により、いもち病が広範囲で発生したことに加え、カメムシの被害が多く出たことによるものと考えられます。このことを受けて、町病害虫防除協議会において、病害虫被害発生の原因を検討する協議の場を設け、来年度以降の対策を講じることとしております。

令和5年産米の需要見通しに関しましては、農林水産省が全国における主食用米の適正生産量を669万トンと発表しました。これを受けまして、秋田県では、全国生産量における県産米シェア率や、適正在庫量、直近の販売状況を踏まえ、「県全体の生産の目安」を39万8千7百トンと決定しております。面積にして6万9千百ヘクタールと、昨年と同等となりましたが、基本的な考えである主食用米から飼料用米並びに高収益作物への転換を推進する方針は変わっておりません。なお、町の生産数量につきましては、現在、農林課で算定作業を進めており、結果を町農業再生協議会に提示することとしております。

その後は方針作成者であるJAの米販売予定数量と調整しながら、協議会臨時

総会の決定を経て、1月頃に「町の生産の目安」として公表する予定であります。一方、畑作物等の生産状況についてはありますが、10月末現在、ネギの生産量は目標の21,88トン、8,479千円に対して、21,26トン、8,018千円となりました。また、青果物全体につきましても、目標の27,66トン、14,687千円に対し、28,99トン、15,720千円と微増しております。これは、6月の長雨、8月の豪雨の影響で、露地物の病害の発生による生育不良があったものの、山うどなどのハウス栽培の品目が、比較的順調だったことによるものと考えております。

リンドウにつきましては、6月の長雨、8月の豪雨の影響を受けたことによる収量の減が見られました。特に大沢地区では、ほ場が冠水したことにより収穫が出来なかったほ場もありましたが、昨年に比べ市場価格が若干持ち直したことから、全体の販売額は昨年とほぼ同額となっております。

畜産につきましては、子牛の市場価格が、一旦はコロナ禍前の価格に戻りつつありましたが、物価高騰の影響で、肥育農家が子牛価格を抑えようとする動きが見られ、県内全体において低価格となっている状況にあります。今後の持ち直しに期待するところであります。

綿羊につきましては、流通経路の見直しにより生肉の販売先を再考したこと、比較的順調な出荷となっているようであり

ます。個人経営の綿羊飼育においては、完成